2022年9月27日（火）19時～・再10月1日（土）10時
講演会資料①
主催：（一般社団法人）障がい児成長支援協会
共催：児童発達支援・放課後等デイサービス「AtoZ　Academy」

～知らなかったでは済まされない！誰も教えてくれない！～

『特別支援が必要な子の進路の話』

○通常の学級と支援級と支援学校で何が違うのか？
○不登校や特別支援学級から進学できる学校がある
○批判するのではなく、学校と連携して将来を考える！

（一般社団法人）障がい児成長支援協会　協会長
中部学院大学非常勤講師　　山内康彦（学校心理士・ガイダンスカウンセラー）

恐るべし！特別支援教育の就職率

■特別支援学校中学部の進学率は、・・・
　岐阜県９８.４％（全国９８.３％）

■特別支援学校高等部卒業者の就職率は・・・

岐阜県□□.□％（全国□□.□％）

恐るべし！特別支援教育の就職率

■特別支援学校中学部の進学率は、・・・
　岐阜県９８.４％（全国９８.３％）

■特別支援学校高等部卒業者の就職率は・・・

　岐阜県３８.０％（全国３２.３％）
　　なんと３人に一人しか就職できていない！
これが現実！「保護者として」「学校として」「行政として」「児童発達・放デイ」として、今から何ができるのか？を早期から考えて、療育を進めていくいく必要がある。

『天を望みて、地を歩む』
→18歳の出口を考えて今の療育を行う

なぜ、「今が大切」と今ばかり見るのか？
→毎年変わる担任、責任がもてない？
≪まず１８歳以降の三つの生き方を考える≫

１　手帳を使って「障害者」として生きていく

２　手帳をもたずに「健常者」として生きていく

３　１と２の合わせ技、手帳と学歴をもつ生き方

それでは、中三以降どのような道に進むか

「特別支援学校高等部」進学か？
それとも「高等学校進学」か？
×現在中３卒業後社会に出る子は100人に一人？

１　特別支援学校高等部進学の場合
〇通常の支援学校高等部に進学
〇高等特別支援学校高等部進学（学力必要）

２　高等学校進学の場合
〇通常の公立・私立の高等学校（内申点必要）
〇特別な高等学校（支援学級から進学可能）
（例）通信制サポート高校や専修学校

今日のお話の内容
（子どもたちのためになるよい教育・療育を知ってもらいたい。）

１　特別支援学校～通常級で何が違うのか（１）

２　何が違うのか（２）支援体制

３　何が違うのか（３）進路

４　身につけなくてはいけない力

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

特別支援学校は、生活単元中心学習よりも、「自立して生きていく力」を身につけていくことが最優先！！

☆小１では、ほとんど学習を行わず身辺自立最優先！！

☆小３から「ひらがな練習」ということもある。

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

特別支援学級（知的学級）は、
生活単元＋教科の授業
基本的に支援学校と同じ！
しかし、その子に合った学習も進めていく。
通常級の交流もその子に合わせてある。
☆「ひらがな」は小１から指導する。

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

特別支援学級（情緒学級）は、
教科の授業＋自立活動（生単無し）
基本的に学年の教科学習を行い、ＳＳＴなどの自立活動を行う。→その子によるが、通常との交流も多く、通常学級に戻るケースも多い。

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

通級指導教室は、
「言葉」と「情緒」の２種類が多いが
（情緒が『ＡＤＨＤ』や『ＬＤ』のように詳細に分かれている所もある）

通常級に籍を置き、週に１～数時間抜き出しで個別の指導を受ける。
※自校通級と他校通級の場合がある

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

通常の学級は、教科の授業中心

原則、担任一人で、３０人の子どもたちを担任。
合理的配慮を行わなくてはならないが、現実は難しい。
※通常級に６．５％の発達障がいの子ども

どのような基準で分けるのか？

判定は、市町村教育委員会

就学指導委員会・教育支援委員会等の名前
（教育委員会担当職員＋校長会代表＋専門医＋支援学校教員＋発達支援センター＋教育長等）＋保護者の願い等書かれた書類

①身辺自立ができているか。
②知的な遅れがあるか。
③情緒面の問題がないか。
　※原則定例・・・臨時も有

変更する場合は、

まず、校内の支援委員会で検討

（校長＋教頭＋主幹教諭＋教務＋学年主任＋コーディネーター＋養護教諭＋支援学級担任＋通級の先生）

校内委員会で変更の必要があるとされると

まず、保護者に連絡

保護者の理解が得られると

教育委員会に書類が行く。

→校内委員会の通り進む

今日のお話の内容
（子どもたちのためになるよい教育・療育を知ってもらいたい。）

１　支援学校～通常級で何が違うのか（１）

２　何が違うのか（２）支援体制

３　何が違うのか（３）進路

４　身につけなくてはいけない力

支援学校→担任が２人

支援学級→担任が１人
＋支援員（県・市町村）

通常学級→担任が１人
＋支援員（県・市町村）
☆小３からは基本担任１人

今日のお話の内容
（子どもたちのためになるよい教育・療育を知ってもらいたい。）

１　支援学校～通常級で何が違うのか（１）

２　何が違うのか（２）支援体制

３　何が違うのか（３）進路

４　身につけなくてはいけない力

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

支援学校は、高等部まで支援学校

通常の学校（支援学級）への変更は、事例としてほとんど無い。
→よほどのことがないかぎり通常の学校が受け入れない。
→手帳を使って、障がい者枠でよりよい就職先をめざす。

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

支援学級（知的）は、最終的に支援学校高等部→就職が多い

《理由》
知的な遅れがあるため、高等学校の学習についていけず、卒業することができないと判断される。
高等学校は、留年がある。

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

支援学級（情緒）は、手帳がないと高等学校進学をめざさなくてはならない。（支援学校定員一杯）

《理由》
平成１０年から支援学校在籍者は２倍に増え、日本全国で２３００以上の支援学校クラスが不足状態

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

通常学級や通級は、原則高等学校進学をめざさなくてはならない。
（通級は通常級にもどす努力）

《理由》
現在は、単位制や通信制など様々な高等学校ができている。
→将来をみすえた支援が必要！！

不登校や特別支援学級から進学できる『特別な高校』

①公立の定時制高校（四年制）や単位制高校

②支援が必要な子がＯＫな私立（例）星槎中高など

③通信制高校（サポート高校）

（例）明蓬館ＳＮＥＣ高等学校→中学部も新設

・３年間で高卒・制服有・通学型も・個別指導中心

他にもＮ高、ＫＴＣ、トライ式等、様々な学校有

④専修学校（通信制＋専門学校）（例）向陽台高等学校

今日のお話の内容
（子どもたちのためになるよい教育・療育を知ってもらいたい。）

１　支援学校～通常級で何が違うのか（１）

２　何が違うのか（２）支援体制

３　何が違うのか（３）進路

４　身につけなくてはいけない力

必要な学力は、中3の出口によって変わる

※今から入試内容を調べて目標を決めて取り組む必要がある

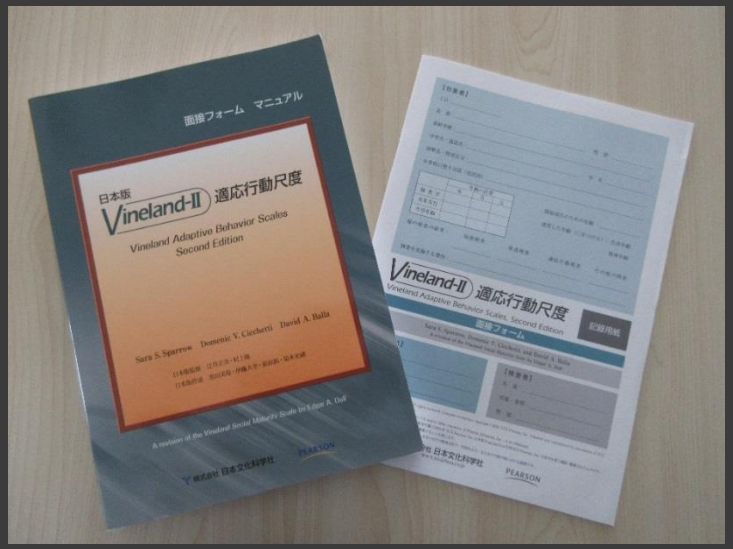
①通常の特別支援学校→学力は関係なし
②高等特別支援学校　→小４～５年程度？
③通信制サポート高校→小６年～中１程度？
④専修学校　　→中１～２程度？
⑤特別支援を受け入れる公立・私立高校　→中１～中２程度
⑥通常の公立・私立校→中２～中３程度

（注）通常の高校の場合は学力がないと“留年”になってしまうことが多い！

【一人で生きていくための力（適応能力・社会性）】

ヴァインランドとＳ－Ｍ社会生活能力検査の活用

【厚労省の放課後等デイサービスのガイドラインにも示されている療育の内容】



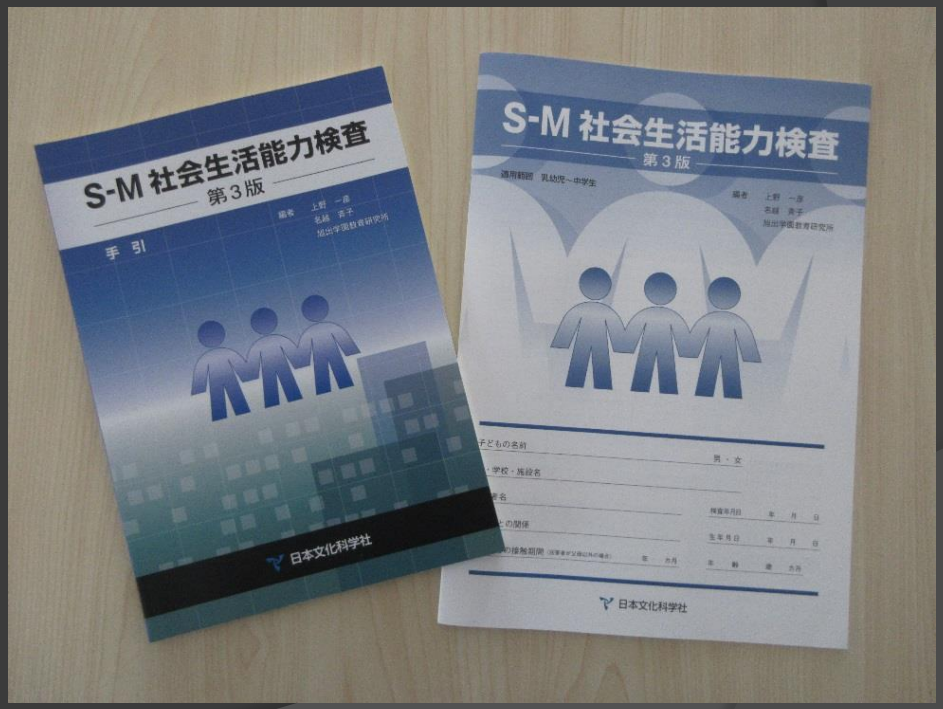
「ヴァインランドⅡ」　　「Ｓ－Ｍ社会生活能力検査」

※なんと99％の放課後等デイで利用されていない！

まずは、何を身につけることが重要なのか

※0歳～15歳までに身につけたい社会性
～S－M社会生活能力検査から～

1　身辺自立
2　移動
3　作業
4　意志交換
5　集団参加
6　自己統制



就職するために必要なことは・・・・

大山会長（日本理化学工業）
の採用条件

- 身辺自立
- 自分で会社に通う
- 「やろう」と言われたら
  すすんでやる
- 仲間にいじわるをしない
- 気持ちのよいあいさつ

就労の違い（山内の指導経験から）

○７歳未満では就労は難しい
○就労するなら（７歳以上の社会性）
○B型が可能→（９歳程度の社会性）
○A型が可能→（１２歳程度の社会性）
○一般就労可能（１２９項目全て達成）

特別支援が必要な子が就労するには、１８歳の段階でどれだけ“社会性”が身についてるかが重要となる！

学校と園・学校と療育施設の協力が重要

“外でできて本物の力”となる

※「家庭内だけでできていてもダメ」
　「園や学校でできてもダメ」
（特別支援学校高等部を卒業しても就労ができる生徒は、わずか３人に１人！）
→気のあった先生や同じ仲間だからできるだけ
※就職すると言うことは色々な人とまざって活動！

◎保護者や先生以外の大人の指示でも従える力
◎色々な仲間とまざっても作業ができる力
→だから今「児童発達支援」と「放課後等デイサービス」が注目されている

少人数と集団の両方の療育が重要

“少人数の療育”の有効性

※まずは、一人一人に合った内容を療育する

※コミュニケーションも順に身につく

・一般的に通常学級は子ども３０人に１人の先生

・特別支援学級でも子ども８人に１人の先生！？

・特別支援学校では子ども６人に２人の先生！？

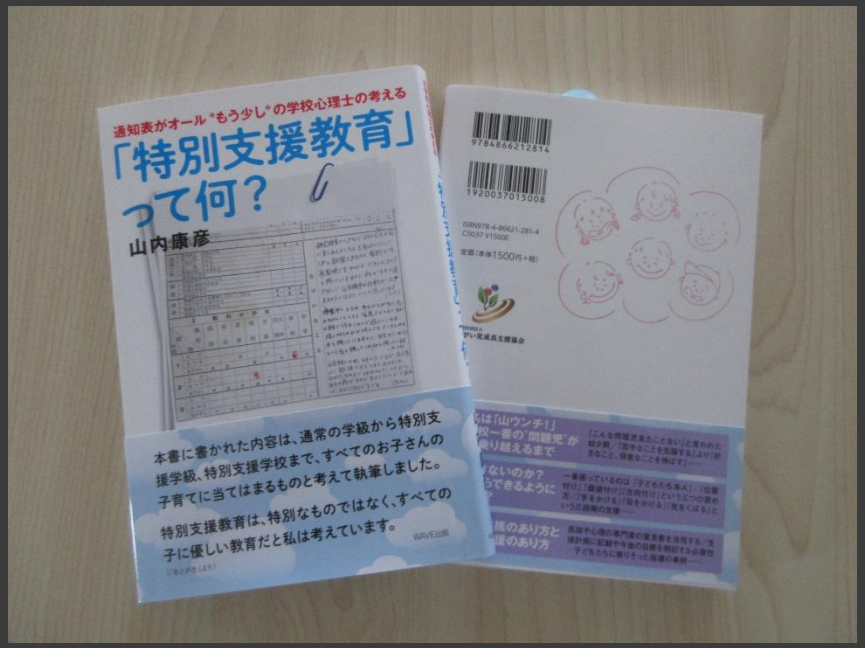
◎児童発達支援や放課後等デイサービスは
子ども１０人に対して指導員４人～５人もいる

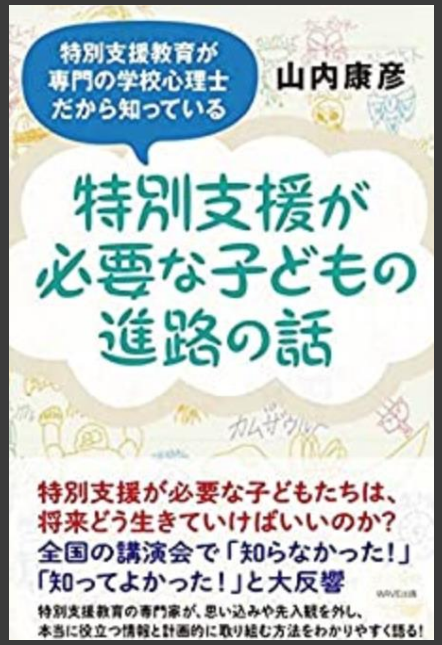
▲通常の学童保育は５０人の子どもに先生３人？

“集団の療育”の有効性

※まずは、少人数から（いきなり大人数は無理）
「ペア」→「トリオ」→「カルテット」

困り感を共感的に受け止め、早期から適切な支援を継続的に行うことが大切です





特別な支援は、もはや特別なものではありません
全ての子どもたちにとってやさしい支援なのです

ご清聴ありがとうございました。